

年 組 名前：

# ゲリラ雷雨 今夏は？

気象情報会社「ウエザーニューズ」(千葉市)は、山梨県内で今夏(7～9月)、突発的で局地的な「ゲリラ雷雨」が過去5年間の平均より、約7割多く発生するとの予想を発表した。梅雨明け後の7月下旬から気温が上昇し、暖かく湿った空気が入りやすくなるため、発生ピークは8月下旬の予想で、同社は「突発的な天気の急変に注意を」と呼びかけている。

同社によると、昨年7～9月は県内でゲリラ雷雨が710回発生。今後3カ月の気圧配置の予想などを参考に、今年は昨年より約5割多い1040回の発生を予想した。過去5年間の平均の1.7倍。特に8月下旬は発生ピークとみている。

山梨を含む東日本は梅雨明け後の7

## 県内 気象情報会社が予想

月下旬から、日中の気温上昇や暖かく湿った空気の影響で、大気の状態が不安定になる見込み。日中に地表の温度が上がり、上空との気温差が生じるため、ゲリラ雷雨の発生確率が高まるという。

9月後半からは台風や秋雨前線、移動性の高気圧の影響をそれぞれ受け、ゲリラ雷雨の発生回数は減少していく予想となっている。

ゲリラ雷雨は明確な定義がなく、1時間当たり11ミリ以上の雨量で、10分前の時点で同14ミリ以下、20分前で同3ミリ以下など五つの条件を作り、各地の会員からの降雨報告で発生状況を把握。気象庁のデータなどを活用してゲリラ雷雨を判定、判断している。

〈松本飛馬〉

(2023年7月11日付 山梨日日新聞 26面)

問1 気象情報会社は、今夏、山梨県内でゲリラ雷雨の発生を、どのように予想をしていますか。

.....

問2 どのような気象状況により、ゲリラ雷雨の発生確率が高まると予測されていますか。

.....

問3 ゲリラ雷雨など、天気が急変した場合に、どのような注意が必要であると、あなたは考えますか。

.....

.....